

ホームだより いなだいら



特別養護老人ホーム伊奈平苑
伊奈平苑高齢者在宅サービスセンター
伊奈平苑ケアプランセンター
伊奈平苑ホームヘルプステーション
武蔵村山市西部地域包括支援センター

住所 東京都武蔵村山市伊奈平6丁目14番の2
電話 042-560-3916
URL <http://www.inadairaen.com>
mail info@inadairaen.com
編集・発行 社会福祉法人村山福祉会 編集係



地域包括ご利用者 石塚 宗虎 様の作品

○ご利用者思い出話…P2～3
○伊奈平苑写真館…P4 ○お知らせ・編集後記…P4

【経営理念】

■一人ひとりの生き方を大切にし、地域で安心して暮らせる時間と空間をつくれます。

【経営方針】

- 私たちは、ご利用者の人権を守ります。
- 私たちは、ご利用者が安心して生活できるよう、心の通うサービスを目指します。
- 私たちは、サービス向上を図り、開かれた経営を行います。
- 私たちは、地域に根ざした運営に努めます。

幸せをみつけながら

デイサービスご利用者 伊藤 幸子 様

私は昭和十六年、太平洋戦争開戦の年に生まれました。生家は新宿区で商売を営んでいました。

昭和二十年三月十日の東京大空襲で山梨県に疎開しており、その頃まだ私は小さかったので焼ける前の家の記憶も、空襲と疎開の記憶もほとんどありません。

山梨で二年ほど過ごす間、新宿の家を建て直すために上京する父について中央本線に乗ったことはぼんやりと思い出せます。元の場合に再建した自宅に戻れたのは小学校低学年の頃です。私には妹と弟がいて、父にも

らったおこづかいを持って妹と二人で伊勢丹に行き、パンやハンカチを買うという、大人びたことですが楽しい遊びもしていました。

両親は季節の行事や風習を大事にしており、ひな祭りも端午の節句も、手作りの和菓子や飾りつけでお祝いでいました。母の手料理やお菓子づくりは私の中に生きていて、中でもぬか漬は今もずっとつくり続けています。

高校を卒業して就職し、その後高校の同級生と結婚しました。

再会してからのお付き合いはとても楽しく、結婚生活もとても幸せでした。

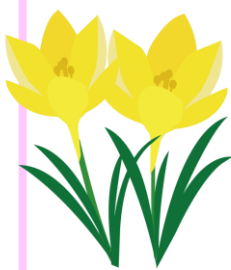
両親は実家の近くに家を建てよう勧めてくれましたが、私たちは独立をえらび、当時武蔵村山にできたばかりの村山団地に引っ越しました。

息子を授かってからはボランディアやPTAなど育児をとおして活動的に過ごし、夫の理解を得ながら民生・児童委員としての活動を、伊奈平苑の近くに引っ越してからも続けました。

当時伊奈平苑はまだできなかったりで、建物は今の半分ぐらいでした。その頃からのご縁で、今はデイサービスでリハビリや手工芸を楽しんでいます。

大切だと思うのは「幸せをみつける」ということ。息子夫婦が気にかけて訪ねて来てくれるのも幸せだし、道端に小さな花が咲いていることも幸せ。私の名前どおりですが、日々の生活のなかでいろいろな幸せを丁寧にみつけていきたいです。

何歳になってもまわりに感謝しつつ、色々なことを前向きに学びたいと思っています。



わたしの思い出話

デイサービスご利用者 菊地 三郎 様

わたしは昭和二年、足立区千住に生まれました。両親は家具屋を営んでおり、自宅兼工場の近くに販売店を構えていました。

家は小さな商店街にあり、米屋や魚屋などが並ぶ一角で、隣は餅菓子屋で、いつも餅やあんこの甘い匂いが流れてきました。八人兄弟の上から三番目で、

上は男二人、下は女四人と、自分を境に男女がわかれている兄弟でした。毎日兄弟や近所の子供と探偵ごっこやかくれんぼ、ベイゴマやメンコをして遊びましたが、

小さな子供は時に興味本位で大きなケガをするもので、サイドカーのついた自転車を追いかけて車輪に左手を巻き込まれ、その時の傷がいまだに残っています。

ほかには千葉の親戚の家から、東京湾の海岸に沿って造られた海水のプールによく行ったのを覚えています。

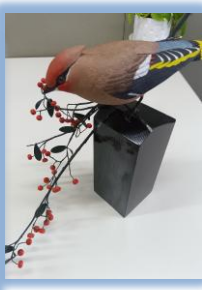
高校卒業後は二人の兄の商売の手伝いをしていました。近く

結婚後昭島市の会社に就職。会社の寮に入り、妻も社員食堂で働きました。子供を二人授かり、今は伊奈平苑の近くに娘家族と暮らしています。

定年退職した頃からわたしが趣味としているのがバードカービングで、杉などとは違い木目のない亜熱帯で採れた木材を、鳥の形に掘り出し彩色していくものです。

木材を彫って鳥の形に近づけてから、熱線のついたコテで少しずつ焼いて羽根の模様をつけ、目やくちばしを造っていくと、まるで本物のような鳥が手の中に姿を現します。

九十七歳になって、最近は細かい作業ができずバードカービングもなくなりました。それでも家の中ではしっかりと歩いて妻や家族を見守りながら穏やかな気持ちで過ごしていきたいと思っています。



菊地様の作品。実物は写真よりリアルで色鮮やかです！

わたしの流転の人生

地域包括支援センター利用者

石塚 宗虎様

わたしは昭和十四年、千葉県野田市に生まれました。野田市は醤油醸造で有名な地で、父は醤油を醸造するために使うタルの「タガ」を作る職人でした。

わたしは六人兄弟の三番目で長男です。父の仕事の都合で五歳のころ栃木県に移り住みました。その頃は終戦直後で、どこの家も同じですが生活が苦しく、母が縫った江戸褌（黒留袖）を米に替えてもらうため、姉と出かけたのがうっすらと記憶にのこっています。そのうち着物と交換してもらえるのが米からどんぐりの粉になり、一家で食べへて行くのはとても大変でした。

そんなこともあり、わたしは中学を卒業した後集団就職で上京、墨田区にある縫製所で働くことになりました。

男子の主な役割は縫製ではなく、商品のワイシャツなどを出荷することです。早朝起きて先輩がたの自転車をみがき、食事を用意し、商品を自分の自転車の沢山積み込んで出発します。隅田川を越える両国橋は風が強

く、大きな荷物を風にあおられ、ふらつきながら自転車をこぎ、やつとの思いで日本橋の間屋に届け、荷下ろしをします。

その後縫製所に帰るのですが、少しでも遅くなると先輩に叱られ、ミシンの整備やトイレ掃除などそこからも仕事が続きます。とても辛い仕事でしたが、それで得たお給料を栃木の実家に送ると、それはもう母に喜ばれました。少しずつづかいを貯めて、初めて自分のために買ったのは腕時計でした。



「母」石塚様の作品

その仕事は二十歳のころに辞め、一度栃木に帰った後、わたしは突然「俳優になりたい」と思い立って、当時五反田の国鉄ビルにあった「劇団ひまわり」の養成所に入るため再び上京しました。

高い月謝を払うため、自分の自転車を売るなどかなり無理をしていましたが、いくつかの時代劇映画などでエキストラとして出演して、結局お金が続かず俳優の夢はあきらめました。

その後再び故郷に戻り、しばらくはおとなしく父の仕事の見習いをしましたが、ほどなくして劇団時代の仲間の誘いで上京し、今度はなんと寿司職人の修行をすることになりました。

まず有楽町の有名な寿司店で三年修行をしましたが、そこでは包丁を握ることも殆どなく、皿洗いやシャリ炊きまで。二十代前半は寿司店を転々とし、ほかに喫茶店のボーイやちり紙交換など、落ち着きなく職を換えていました。

最初の結婚はバーテンダーをやっていた時で、娘が生まれましたが、すぐに妻が心臓の病で他界。男一人で生まれたばかりの娘を育てるすべもなく、周囲に相談して一時的に杉並区の施設に預けることになりました。

その二年ほど後、現在の妻と再婚しすぐに娘をひきとり、そこから家族としての生活が始ま

りました。

そのころから絵を描くことを趣味として、仕事をしながら独学で絵の技術を身につけました。絵の講師として教室で生徒さんたちに教えたり、絵画サークルで絵の好きな仲間を集めたり、議員さんの肖像画を描いたりしながら、自分の好きな山里の風景画も沢山描いてきました。

思い返すと本当に生々流転の人生で、自分でもどのような順番で、何歳のころどこに行き、何をしたのかもどうも曖昧な部分が多々あります。

今こうして絵を描いて、妻とのんびり暮らす自分というのは、若いころの自分には想像ができなかったものかもしれません。ただ、どの経験も笑いながら、懐かしみながら語れるのですから、試行錯誤も後悔もわたしの人生にはすべて必要なものだったと考えています。



「ソルベット（芍薬）」石塚様の作品

伊奈平写真館

雛飾り 3月3日



東館1階玄関ホールにお雛様を飾りました。

ちょこふらカフェ 3月15日



ちょこっと、ふらっと参加できる伊奈平苑の認知症カフェ「ちょこふらカフェ」。今年度3回目はお母様を介護するご家族のお話とアロマオイルづくり、マッサージ体験でした。日々大変だけれど、ほっとしたり嬉しくなったりする時間もとても大切です。今回はデイ、ヘルパー、ケアプランセンターの企画で、ヘルパーステーションが空間をまるごとプロデュース！春先取りの華やかな会場で、皆で楽しい時間を過ごしました。

かみつぐ助成金



〈介護用洗身用具〉



〈小型卓上分包機〉

この度 東京善意銀行を通じて故・上継弘子様のご遺志「かみつぐ助成金」によるご支援にて「介護用洗身用具」および「小型卓上分包機」を購入いたしました。ご利用者の皆様へ安心・安全なサービスの提供に活用させていただきます。今後とも地域福祉の向上に努力を重ねるとともに深く感謝とお礼を申し上げます。

伊奈平苑からの

お知らせ

この度、伊奈平苑において大規模改修工事を実施させて頂くこととなりました。改修工事に際しましては、安全の確保に十分な対策を立てて進めて参ります。大変ご迷惑をお掛け致しますが、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。■工事期間■令和7年4月～10月(予定)



編集後記

春のうららの隅田川と歌われている「うらら」ですが、「ゆらゆら」から「うらうら」へ変化した古語の略称という説があります。リラックス出来る言葉ですね。(編集係K)